

解答

一

問一

① はず〔れた〕 ② ざった ③ 批判

問二

Ⅰ エ 2 イ 3 ア

問三

自分の頭でひとが考えないことを考える

問四

エ

問五

自然忘却作用

問六

良い知識を適量、しっかり頭の中に入れ、不要なものは適当に忘れて、頭の中をスッキリさせた状態。

問七

ウ

問八

コンピューターは知識をためこんで問題を処理することしかできないが、人間には不要な記憶を忘れる能力があり、知識だけにたよらず自分で新しいことを考え出す力を持っているという違い。

二

問一

① 放課後 ② 担任 ③ 困〔った〕 ④ 競技

問二

Ⅰ ア 2 オ 3 エ

問三

ウ

問四

古くなり、大切にされていない状態。

問五

堂本くんのいやがらせと思える意見にざわめいているのに、反対意見は出ず、足のおそい修が選手に決まってしまうようなこと。

問六

勇気をふりしぼって、何とか声を出している様子。

問七

ア・エ

問八

イ

解説

一

問八

筆者は、冒頭で「コンピューターは『記憶することにかけては敵なしだが、『考える』ことを知らない。』と述べ、本当の意味で「考える」とは、「良い知識を適量、しっかり頭の中にいれて、：自分の頭でひとが考えないことを考える力」のことだと主張しています。そのために、人間が持っている「自然忘却作用」に着目し、「適当に忘れて頭をスッキリさせること」が頭をよく働かすために大切であると述べています。

二

問五

足のおそい修を推す堂本くんの意見に、「もっと早い人がいいよ」と教室にざわめきが起こるものの、「だれも手を上げない」という状況の中、修に決まってしまうようになっていく事態に議長として困っている様子がわかります。